種名	シ　マ　ヘ　ビ Elaphe quadrivirgata
分類	有鱗目ナミヘビ科ナメラ属
俗称	全身が黒い黒化型はカラスヘビと呼ばれる。
形態的な特徴	全長 80～200cm で、メスよりオスの方が大きい。名前の通り、ふつうは黄褐色からオリーブ色の地色に4本の黒い縦縞が走っているが、色彩変異が多く、まれに縞が薄れたり全く欠く場合もある。また、全身が黒くなる黒化型や、一見アオダイショウに似る個体もいる。ただし、目の虹彩の色がシマヘビは赤く、アオダイショウの虹彩はオリーブがかった褐色をしているため識別が可能である。幼蛇は成体とは全く模様が異なり、基色が赤っぽく背面の前方にあずき色の横帯が並んでいるが、成長につれて薄れていく。
分布	北海道、本州、四国、九州。島嶼では、国後、飛島、粟島、佐渡、隠岐、見島、壱岐。五島。御蔵島以北の伊豆諸島、大隈諸島などの諸島に分布する。
繁殖行動	昼行性でおもに地表で活動する。気性が荒く、興奮すると尾を激しくふって威嚇する。4～6月に交尾し、7～8月頃に石や藁の下などに4～16個の卵を産む。卵は40～50日で孵化し、孵化直後の全長は約30cmである。冬季は地中で冬眠する。
生息場所	平地から低山に生息し、石垣や草むら、石積みの下などをすみかとする。林内より明るく開けた太陽の当たる環境を好み、堤、草原、農道、水田の畦などでよく見られる。
食性	行動はすばやく、積極的、活動的に餌を探しまわってさまざまな脊椎動物を捕食する。なかでもカエルを食べる割合が最も多く、次いでトカゲやカナヘビなどが多い。また、鳥や小型哺乳類、他のヘビを食べることもある。
生息環境への配慮事項	農村環境にごく普通に生息するヘビで、全国的には個体数も多い。しかし都心部では、近年、急激な個体数の減少が報じられている。シマヘビが生息するためには、すみかとなる石垣や草むらなどの空間のほか、餌となるカエル類が豊富に生息していることが必要である。つまり、カエル類が減少することは、捕食者であるヘビ類の減少にもつながる。したがって、農地整備を行なう際にはヘビ類の生息空間を確保するだけでなく、カエル類をはじめ餌資源である小動物の生息が可能となるよう留意しなくてはならない。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	